

国立大学医学部長会議
研究推進・大学院教育に関する小委員会委員長
山梨大学医学部長 有田 順

医学部を卒業した後、大学や研究所などで研究を行う者を研究医と呼びます。以前からも基礎研究医の払底が危惧されてきましたが、臨床研修が義務化されてからは臨床研修医も減少してきていることが指摘されています。このような中、後継を育てることができなければ将来の衰退は避けられないという危機感から、全国の医学部では、研究医を養成するためのさまざまな取り組みが行われています。一方、このような認識のもとに文部科学省も研究医養成を目的として平成 22 年度から研究医養成の医学部入学枠を設けています。

取り組み 1

医学部の学生の中にも研究医を志望する者が少なからず存在し、各大学の研究医養成のプログラムに積極的に参加しています。このような研究医を志願する学生が卒業後、一人でも多く、研究医への道へ踏み出すことを期待し、国立大学医学部長会議は、昨年 11 月 24 日、本会議 HP に研究医養成の情報コーナー「研究医への第一歩」を開設しました (http://www.chnmsj.jp/kenkyuui_jouhou_corner.html)。

この情報コーナーの目的は、第一に、各大学での研究医養成の取り組みの内容を紹介し、アーカイブ化すること（「全国の医学部における研究医養成の取り組み」参照）、第二に、えてして孤立しがちな研究医を目指す学生に全国に散らばる同じ環境にある学生と共感できる場を提供すること（「プロフェッサーのヒヨコ達」参照）、第三に、すでに研究医となった教授が研究医への道を歩むことを決断した頃の回想記を掲載することによって、研究医になることを躊躇する学生の背中を押してあげることです（「プロフェッサーがヒヨコの頃」参照）。

第 1 回は昨年 11 月に東京大学、第 2 回は 12 月に北海道大学の記事を掲載し、今後毎月更新していきます。

取り組み 2

基礎医学系研究医の減少だけでなく、最近、臨床医学系においても研究医が減少していることが問題となっています。本会議の研究推進・大学院教育に関する小委員会では、この研究医減少の現状と、各大学の医学部及び医学系大学院における研究医養成の取り組みを調査することを目的として、昨年 12 月全国の医学部を対象にアンケート調査を実施しました。12 月末にアンケートの回収を終え、現在結果の分析を始めています。このアンケート結果は春に開催される国立大学医学部長会議総会において公表する予定です。